

高校生のための日本語実力テストの使い方

日本語実力テストには、「日本語実力テストA」と「日本語実力テストB」の2回分のパッケージがある。どちらも、「文字・語彙編」と「文法・読解編」の2部構成で、「日本語実力テストA」を年度初頭の新生対象プレイスメントテストとして実施し、「日本語実力テストB」を年度末に実施して日本語力の伸びを確認するといった使い方ができる。

いずれも日本語能力試験N5(初級前半)からN2(高校の授業についていけるレベル)までの問いを順に配置している。日本語レベルごとに集計し、得点率80%に達していれば、そのレベルの日本語の能力を有していると大まかに考えて良い。

所要時間は「文字・語彙編」が40分、続いて「文法・読解編」が40分で、最長80分である。試験実施の際には、まずは「文字・語彙編」から生徒に解答させる。終わったら回収し、次に「文法・読解編」を生徒に渡す。いずれも、辞書などは使用せずに解答させる。

(1)「文字・語彙編」

問題1

漢字の読み方40問

問題番号	(1)～(10)	(11)～(20)	(21)～(30)	(31)～(40)
日本語レベル	N5レベル	N4レベル	N3レベル	N2レベル

問題2

漢字の書き方40問

問題番号	(1)～(10)	(11)～(20)	(21)～(30)	(31)～(40)
日本語レベル	N5レベル	N4レベル	N3レベル	N2レベル

問題3

語彙40問

問題番号	(1)～(10)	(11)～(20)	(21)～(30)	(31)～(40)
日本語レベル	N5レベル	N4レベル	N3レベル	N2レベル

問題4

短文作成3問

問題番号	(1)	(2)	(3)
日本語レベル	N4レベル	N3レベル	N2レベル

短文作成問題は、定められた語を文脈に合った使い方ができるかを見る問い。採点の際には、解答例以外の正答もあり得る。

(2)「文法・読解編」

問題1

文法 40問

問題番号	(1)～(10)	(11)～(20)	(21)～(30)	(31)～(40)
日本語レベル	N5レベル	N4レベル	N3レベル	N2レベル

問題2

読解 4 または 5 問

問題番号	(1)～(5)
日本語レベル	N2・N1レベル

N2・N1レベルの語彙を使用している。(5)は、文章全体の意味を捉え、それを文章で説明する力を見るための記述式問題である。

日本語実力テスト作成者(あいうえお順):

文字語彙：大津友美、小竹茜、菅長理恵、浜田かおり

文法読解：大津友美、小竹茜、浜田かおり